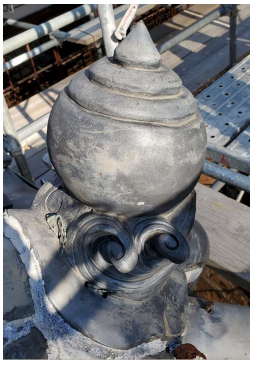
内子座 藝於遊

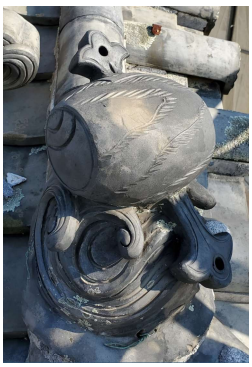
瓦の取外し⑤

令和 7 年 10 月 22 日、唐破風の屋根から内子座を見守り続けてくれていた“狐”2 体が取り外されました。今回の保存修理事業のキャラクターとしても活躍してくれている狐を間近に見るチャンス到来とばかりに、写真を取らせていただきました。

狐の形をした瓦は“留蓋瓦”と呼ばれる屋根の隅に設置される瓦で、雨水の侵入を防ぐ役割を果たします。装飾的な要素もあり、内子座には”狐“のほかに、”宝珠”と”小槌”の形もあります。ともに商売繁盛や縁起を担ぐ意味合いでこれらの形が採用されたのではないかと考えられます。

唐破風屋根から下りてきた留蓋瓦の狐
（10 月 22 日撮影）





◀写真左“宝珠”と写真右“小槌”の形をした留蓋瓦。それぞれ東西の櫓の屋根に合計 3 つずつ取り付けられている。

◀左上：瓦は漆喰等で固定されていて、それらを取り除く作業の様子。瓦を割らないよう慎重に作業されます。
左下：無事に瓦を取り外すことができました！

▲瓦に付着している漆喰等を丁寧にそぎ落としていきます。狐に「早く取って！」とせがまれているみたい(笑)

編集・発行：内子町町並・地域振興課